

チョウトンボ 舞う 湿地の保全

石神井池下流部の湿地で数多く見られたチョウトンボ



水面が広がった湿地で採食するアオサギ



マコモなどの刈り取り (2024年5月)

石神井池の池畔にはスゲやシヨウブが生育する湿地が点在しています。湿地は管理の手を加えないと数年で枯れ草が堆積して陸地に変わってしまいます。石神井池では保全活動団体と公園管理者らが草刈りなどを行い、協働で湿地の環境を維持しています。

昨年度から今年度にかけては主に池の下流部の湿地で草刈りなどを行い、草丈の低い、水面が点在する湿地を維持しています。協働による定例作業に加え、7月には一般参加イベント「湿地de草刈り」を開催。石神井公園のために役立ちたいという人たちが参加し、総勢18名で草を刈りました。

石神井池下流部の湿地 Before & After



陸地化が進み、水面がほとんどなかったため、スコップなどで掘り下げた (2023年2月)



マコモに覆われて水面が見えない (2024年5月)



刈り取り後、水面が見えるようになった湿地 (2024年7月)

しゃくじい
石神井池

水辺
しんぶん

かいほりを軸とした水辺再生の取組をつたえる

No. 9

2024年9月

登録番号 6(4)

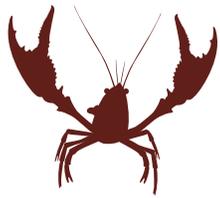
発行
東京都
東部公園緑地事務所



編集
認定 NPO 法人 生態工房



湿地で休むギンヤンマ



イベント開催日は園内のポスターで告知します！
要チェック！



一つのワナにザリガニが10匹前後入っていることも。数の多さに驚いていました。



とれた在来種は識別シートで種類を確認。
在来種のエビや魚を初めて見たという参加者も！

ピックアップ! News

再生しよう！水辺の生物多様性 アメリカザリガニ捕獲にご協力ください

アメリカザリガニは、水草や水生昆虫、貝などを食害して水辺の生物多様性を劣化させることから、石神井公園では防除を行っています。2024年は作業イベント「アメリカザリガニ駆除の日」を月1回程度開催し、一般参加者と協力して防除に取り組んでいます。

イベントでは石神井池に設置してあるワナを引き上げ、ザリガニを回収しながら数を記録しています。ワナには在来種のテナガエビやクロダハゼなども入ることがあり、池の生きものについて学べると好評です。

このほか、ひょうたん池には公園サービスターが設置しているザリガニ回収ボックスがあります。アメリカザリガニの回収には是非ご協力ください。

園芸スイレン対策を スピードアップ！

園芸スイレンは、自然池に持ち込まれると激烈に増加して在来水草の生育場所を奪うほか、水面を葉で覆って水中の酸素を欠乏させたり、大量の枯死体をつくって水質を悪化させるといった被害を引き起こしたりします。

国指定天然記念物の三宝寺池沼沢植物群落では、スイレンの増加で絶滅危惧種のコウホネが消失しそうな区域が見られたため、スイレン防除に取り組んできました。取組の一つが、遮光シートによる防除です。スイレンの生育場所にシートを被せ、光合成を阻害して枯死させる方法で、水深が深くて刈り取り等をしにくい場所や、生育面積が広大な場所で特に効果を発揮します。

三宝寺池では約220㎡の区域にシートを張っていましたが、2024年度はシートを約3倍に増やしました。シートを1年間張っておき、翌年に隣接区画へずらして



三宝寺池下流部。昨年までシートを張っていた場所(左側)はスイレンの芽生えが少ない。

スイレンでこんな被害が！



水中を暗くし、生物をすみにくくする



光合成、無理無理無理無理...

猛烈に増えて、野鳥や植物の生育スペースを奪ってしまう

いったいどこに住めば...



ミツガシワ

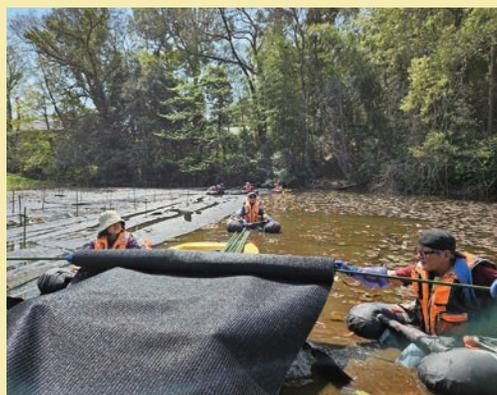
コウホネ

空中と水中を遮断し、水中を酸素不足にする



水の中が真っ黒くなります

うう、酸素....



ボートを駆使して隙間がないように丁寧にシートを設置するボランティア

防除範囲を拡げていく計画です。シートで枯死しなかったものや、シート周辺で生存しているものは刈り取り防除も併せて行います。スイレン防除によって多様な在来水草が生育する水辺を再生していきたいと考えています。

